

# 小学校教員養成課程の学生における「歌唱共通教材」

## 認知度に関する一考察

— 大学1年次学生の実態調査を通して —

### Research and Study of the Recognitions of the Common Music Singing Teaching Materials in the Elementary School Teacher Training Course

— Survey on the Actual Condition of University First Year Students —

溝部ちづ子・緒方 満・押川 貞生・中村 孝・道法亜梨沙

MIZOBE Chizuko, OGATA Mituru, OSHIKAWA Sadao, NAKAMURA Takashi and  
DOHO Arisa

キーワード：音楽教育・歌唱共通教材・学習指導要領・音楽科授業・小学校教員

#### I はじめに

2020年（令和2年）から小学校では、今後未知の社会で自ら生きぬく子どもを育てることを目標とした新学習指導要領が本格実施となる。

「歌唱共通教材」については、平成20年告示学習指導要領と同じ楽曲を取り扱うこととなり、1年から4年までは、各学年とも共通教材4曲を、5・6年は各学年とも共通教材4曲中3曲を学習することとしている（平成29年告示学習指導要領）。

「歌唱共通教材」の意義として文部科学省は、平成20年学習指導要領告示の際に、歌唱共通教材の曲数が増えた理由とともに次のように説明している。「歌唱共通教材を設ける意義として、我が国で親しまれてきた唱歌や童謡、わらべうた等を、子どもからお年寄りまで世代を超えて共有できるようになることにあります。また、我が国で長く歌われ親しまれてきたうたを取り扱うことは、我が国の音楽文化を受け継いでいく意味からも大切です。そのようなうたがさらに取り上げられるように、これまで学年ごとに4曲示してきた楽曲から第1学年から第4学年までは4曲すべてを取り扱うこととし、第5学年及び第6学年は4曲中3曲を含めて取り扱うことにしました。」また同時に、中学校の歌唱共通教材として7つの楽曲が示されたことについては、次のように説明がある。「わが国で長く歌われ親しまれている歌曲を歌唱教材として取り扱うことは、我が国の良き音楽文化を世代を超えて受け継がれるようにするうえで大切です。中略～そこで、我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの又は我が国の文化や日本語の持つ美しさを味わえるものの観点からこの観点にふさわしい7つの楽曲を歌唱共通教材としました。」（平成20年告示学習指導要領 Q & A）

このように歌唱共通教材は、音楽科目標や授業時間数の変化のある中で、昭和33年告示学習指導要領以降、今日まで7回の学習指導要領改訂を経て、なお文部省唱歌を中心に、連綿として「必ず指導する教材曲」として音楽科教科書の中で取り扱われており、学校教育において大変重要なものとして位置づいていると考えられる。

こうした中で、本学の子ども発達教育学科では、1年次に「音楽Ⅰ・Ⅱ」の授業を設定し、主と

して「ピアノの弾き歌い」に取り組み、その題材の一つとして、「小学校歌唱共通教材」を使用しているが、「曲を習ったことがない。」「記憶がない。」「覚えていない。」という声が例年かなりの学生から聞こえてくる実態である。このことは、先行研究からも同様の実態を見聞きしている。(鈴木・伊藤 2011；酒匂・猪野・村尾・嶋田 2015；津田・江田・中山・後藤・嶋田 2014；中家 2018；氏家 2019)

本稿では、今年度小学校教職課程を学び始め、数年後には教育現場で新学習指導要領のもと、子どもたちを指導する学生たちが、「小学校歌唱共通教材」を、どのように履修したと認知しているか、どのように捉えているかを彼らの音楽経験や曲の好みとの関係と併せて調査し、学習指導要領の変遷や時代背景とともにその結果を考察することを目的とする。

## II 学習指導要領に見る「小学校歌唱共通教材」と「音楽科授業時間数」の変遷

ここでは、小学校学習指導要領が法的な拘束力を持つようになった1958年（昭和33年）告示における学習指導要領から2017年（平成29年）告示の新学習指導要領までを、2つの視点で概観し考察する。1点目は、この約60年にわたる小学校音楽科の授業時間数の変化を教育課程全体の中で整理する。2点目は、「小学校歌唱共通教材」の変遷を楽曲名と曲数の取り扱いで整理することとする。

### (1) 授業時間数の変化と時代背景

1958年（昭和33年）に試案から告示と変わった「学習指導要領」（表1では①）から、2017年（平成29年）告示の「学習指導要領」（表1では⑦）まで、計7回を「音楽科」の授業時間数で概観すると、3つに分類できる。

表1の①②③「学習指導要領」と、④「学習指導要領」と、⑤⑥⑦「学習指導要領」である。初めの①②③を社会背景と併せて、仮に「高度成長期」とし、次の④を「生活科新設期」とし、⑤⑥⑦を「週5日制期」とみることができる。

①②③の時代は、日本経済が高度成長し、科学技術は格段の進歩を見た時代で、①では「道徳」が新設、それまでの経験主義教育から系統主義への転換が図られた。②では、さらに「教育の現代化」の影響を受け、内容が高度化した。その結果「落ちこぼれ教育」や「校内暴力」「不登校」といった課題をもたらした。③では「ゆとり教育」を掲げ、系統主義から経験主義へ180度転換した。①②③とも、音楽科授業時間は、1年で週3時間、2年～6年まで週2時間であった。③の「ゆとり教育」では、小学校総授業時間数が0.6%削減されたにも関わらず、音楽の授業時間数はそれまでと同様であった。

次の④の時代では、バブル期の収束と不況から、様々な大改革が必要となった。教育では「生活科の新設」と「新しい学力観」が特徴である。授業時間数は1年生で減少し、全学年週2時間となった。

さらに、⑤の時代には学校5日制に基づく改訂が行われ、「ゆとり」の中で「生きる力」の育成が重視された。「総合的な学習の時間」は新設だったが、総授業時間が14%削減され、教育内容も3割程度削減された。学力低下や「ゆとり教育」の是非が議論されていった。音楽科授業時間数も削減され、低学年は週2時間、中学年高学年では、週の時間割ではきちんと入れられないそれぞれ約1.7時間と約1.4時間であった。これは、⑥の時代も⑦の時代も同様の「音楽科」授業時間である。⑥の時代においては全体の授業時間数が増えており、⑦の時代は2020年度本格実施の学習指導要領となるが、1日の授業時間数が日本教育史上最多となるほど増えているにも関わらず、音楽科の授業時間数は⑤の時代の時間数と同様である。

1週間の時間割の中で、小学生が学ぶ音楽科授業時間数を1年から6年までを合計し、①から⑦

の中で、多い順に並べてみると、最多が「①②③学習指導要領」の「高度成長期」の452時間である。次が、「④学習指導要領」の「生活科新設期」で418時間、最少が、「⑤⑥⑦学習指導要領」の358時間である。最多と最少の差は、94時間で、①②③の時代の小学生は、⑤⑥⑦の近年の時代の小学生より、これだけ多くの時間、小学校時代に音楽の授業に触れていたことがわかる。

表1 「小学校歌唱共通教材」と「音楽授業時間数」の変遷

学習指導要領		1年	2年	3年	4年	5年	6年	総合計	指導要領の特徴	
① 1958年 (昭和33年) 告示	指定曲名	かたつむり 月 日のまる	春がきた さくらさくら 雪	春の小川 もみじ 汽車	赤とんぼ 村のかじや 子もり歌	こいのぼり 海 冬げしき	おぼろ月夜 われは海の子 ふるさと	18	・ 試案から告示へ ・ 授業時数が定められた ・ 小中「道徳」新設	
	指定曲数	3	3	3	3	3	3			
	【週】音楽時数 ／総授業時数	3／24	2／25	2／28	2／29	2／31	2／31			13／168
	【年間】音楽時数	102	70	70	70	70	70			452
② 1968年 (昭和43年) 告示	指定曲名	かたつむり 月 日のまる	春がきた さくらさくら 雪	春の小川 もみじ 村まつり	茶つみ 村のかじや 子もり歌	こいのぼり 海 冬げしき	おぼろ月夜 われは海の子 ふるさと	18	・ 教育の現代化 ・ 1時間が45分となった	
	指定曲数	3	3	3	3	3	3			
	【週】音楽時数 ／総授業時数	3／24	2／25	2／28	2／29	2／31	2／31			13／168
	【年間】音楽時数	102	70	70	70	70	70			452
③ 1977年 (昭和52年) 告示	指定曲名	うみ 日のまる ひらいたひらいた	春がきた 夕やけこやけ かくれんぼ	春の小川 ふじ山 うさぎ	さくらさくら もみじ とんび	子もり歌 冬げしき スキーの歌	おぼろ月夜 かりがわたる ふるさと	18	・ これまでの時数へ批判 → 授業時数削減(6%減) ・ ゆとり教育	
	指定曲数	3	3	3	3	3	3			
	【週】音楽時数 ／総授業時数	3／25	2／26	2／28	2／29	2／29	2／29			13／166
	【年間】音楽時数	102	70	70	70	70	70			452
④ 1989年 (平成元年) 告示	指定曲名	うみ かたつむり 日のまる ひらいたひらいた	春がきた 夕やけこやけ かくれんぼ 虫のこえ	春の小川 ふじ山 うさぎ 茶つみ	さくらさくら もみじ とんび まきばの朝	子もり歌 冬げしき スキーの歌 こいのぼり	越天楽今様 おぼろ月夜 われは海の子 ふるさと	18／(24)	・ 新しい学力観 ・ 「生活科」新設	
	指定曲数	3／(4)	3／(4)	3／(4)	3／(4)	3／(4)	3／(4)			
	【週】音楽時数 ／総授業時数	2／25	2／26	2／28	2／29	2／29	2／29			12／166
	【年間】音楽時数	68	70	70	70	70	70			418
⑤ 1998年 (平成10年) 告示	指定曲名	うみ かたつむり 日のまる ひらいたひらいた	春がきた 夕やけこやけ かくれんぼ 虫のこえ	春の小川 ふじ山 うさぎ 茶つみ	さくらさくら もみじ とんび まきばの朝	子もり歌 冬げしき スキーの歌 こいのぼり	越天楽今様 おぼろ月夜 われは海の子 ふるさと	16／(24)	・ 生きる力 ・ 「総合的な学習の時間」 新設 ・ 学校週5日制 ・ 授業時数削減(14%減)	
	指定曲数	3／(4)	3／(4)	3／(4)	3／(4)	2／(4)	2／(4)			
	【週】音楽時数 ／総授業時数	2／23	2／24	1.7／27	1.7／27	1.4／27	1.4／27			10.2／154
	【年間】音楽時数	68	70	60	60	50	50			358
⑥ 2008年 (平成20年) 告示	指定曲名	うみ かたつむり 日のまる ひらいたひらいた	春がきた 夕やけこやけ かくれんぼ 虫のこえ	春の小川 ふじ山 うさぎ 茶つみ	さくらさくら もみじ とんび まきばの朝	子もり歌 冬げしき スキーの歌 こいのぼり	越天楽今様 おぼろ月夜 われは海の子 ふるさと	22／(24)	・ 確かな学力 ・ 「外国語活動」新設 ・ 全国一斉学力テスト ・ 授業時数増加(8%増)	
	指定曲数	4	4	4	4	3／(4)	3／(4)			
	【週】音楽時数 ／総授業時数	2／25	2／26	1.7／27	1.7／28	1.4／28	1.4／28			10.2／161
	【年間】音楽時数	68	70	60	60	50	50			358
⑦ 2017年 (平成29年) 告示	指定曲名	うみ かたつむり 日のまる ひらいたひらいた	春がきた 夕やけこやけ かくれんぼ 虫のこえ	春の小川 ふじ山 うさぎ 茶つみ	さくらさくら もみじ とんび まきばの朝	子もり歌 冬げしき スキーの歌 こいのぼり	越天楽今様 おぼろ月夜 われは海の子 ふるさと	22／(24)	・ 社会に開かれた教育課程 ・ 「道徳」教科化 ・ 「外国語科」新設 ・ 1日の授業時数が日本教 育史上最多	
	指定曲数	4	4	4	4	3／(4)	3／(4)			
	【週】音楽時数 ／総授業時数	2／25	2／26	1.7／28	1.7／29	1.4／29	1.4／29			10.2／165
	【年間】音楽時数	68	70	60	60	50	50			358

※【年間】音楽時数について、1年生は年間34週、2年生以上は35週で計算

## (2) 歌唱共通教材の楽曲名と曲数の変化

前項の授業時間数の変遷と同様、表1に記した通りの楽曲数の変化である。分類としては、「音

「音楽科」の授業時間数3つに分類した3つ目の箇所を2つに分け、計4つの分類とした。表1の「①②③の学習指導要領」と、「④学習指導要領」と、「⑤学習指導要領」と、「⑥⑦学習指導要領」の4つである。

1958年告示時から1977年告示時の①から③においては、授業時間数同様、曲数も同じである。全学年各3曲の指定曲で、6学年全体で18曲が指定されていた。楽曲名は、「③学習指導要領」において変化があり、「ひらいたひらいた」などのわらべ歌や「うさぎ」などの日本古謡が取り入れられた。

1989年告示（④学習指導要領）では、各学年指定曲が4曲となり、そのうち3曲を選択して扱うようになった。そのため、6学年全体で歌唱共通教材全24曲中、18曲を教員が選択し指導しているが、わらべ歌や日本古謡を含めるようにと明記されている。

1998年告示（⑤学習指導要領）では授業時間数の減少とともに、5・6年の曲数が減り、それぞれ指定曲4曲中2曲を選択することとした。そのため、6学年全体で全24曲中、16曲を教員が選択し指導している。

2008年告示時から2017年告示時（⑥⑦学習指導要領）では、「音楽科」授業時間数は前回と同様であるが、曲数は全学年1曲ずつ増え、全24曲の指定曲中22曲を教員が選択して指導することになった。

図1では、音楽科授業時間数と歌唱共通教材指定曲数を整理している。

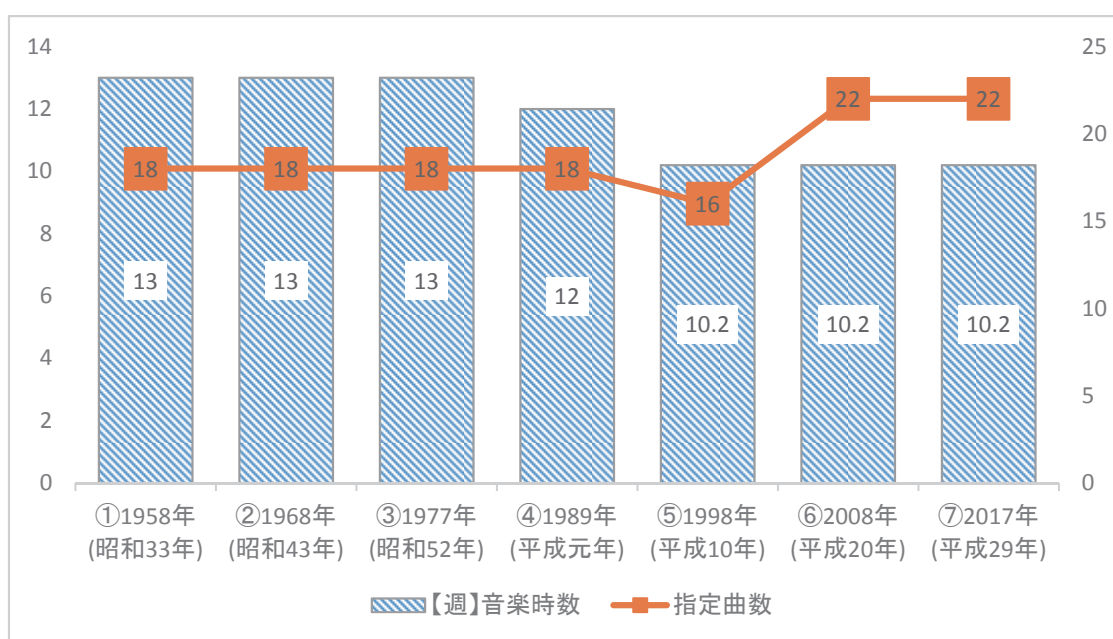


図1 1週間の音楽科授業時間数と歌唱共通教材指定曲数（全学年）の変遷

### Ⅲ 大学1年生に対する「歌唱共通教材」の意識調査

#### 【調査対象者】

本学子ども発達教育学科2019年度入学生82名（男性29名、女性53名）を対象とする。

#### 【手続き】

82名の調査対象者に対し、2019年10月に質問紙調査を実施した。質問紙の実施は「この調査は統計を取る目的だけに使われるものです。それ以外の目的に使われることはありませんのでありのままご記入ください。」と教示文を付して、事前説明した。

### 【質問紙の構成】

1. 将来指導者としての苦手科目を 11 科目中 5 つまでを選択：①国語 ②社会 ③算数 ④理科  
⑤生活 ⑥音楽 ⑦図画工作 ⑧家庭 ⑨体育 ⑩道徳 ⑪外国語

2. 学校の授業以外での音楽経験の有無：①ある ②ない

2-1. (2で①あると回答した人のみ) 何をどれくらいの期間経験したか。:

● ピアノ【 年】

● ピアノ以外の楽器(楽器名: )【 年】

● 合唱団やオペラ, ミュージカルなど【 年】

● その他(内容: )【 年】

3. 小学校時の「音楽」授業は, 好きか嫌いか。6 件法で評定。「理由」は自由記述：①とても好き  
②やや好き ③どちらかといえば好き ④どちらかといえば嫌い ⑤やや嫌い ⑥とても嫌い

4. 24 曲の歌唱共通教材について

24 曲名は, 質問紙対象学生が小学生時(⑤⑥学習指導要領)のもの(表 1)で, 調査は, 質問項目冒頭に楽曲名と歌詞(1フレーズ)を書いて示し, CD(小学校教科書添付)を 1 フレーズのみ聴く中で実施した。質問項目は 24 曲とも以下の通り。

(1) 小学校の音楽の授業で学習した記憶の有無：①ある ②ない

(2) この曲を大学で学ぶ以前に知っていたかの有無：①ある ②ない

(3) この曲を歌えるか歌えないか。6 件法で評定：①とても歌える ②やや歌える ③どちらかといえば歌える ④どちらかといえば歌えない ⑤やや歌えない ⑥とても歌えない

(4) この曲は好きか嫌いか。6 件法で評定：①とても好き ②やや好き ③どちらかといえば好き ④どちらかといえば嫌い ⑤やや嫌い ⑥とても嫌い

(5) この曲の歌詞は好きか嫌いか。6 件法で評定：①とても好き ②やや好き ③どちらかといえば好き ④どちらかといえば嫌い ⑤やや嫌い ⑥とても嫌い

(6) この曲のメロディーは好きか嫌いか。6 件法で評定：①とても好き ②やや好き ③どちらかといえば好き ④どちらかといえば嫌い ⑤やや嫌い ⑥とても嫌い

### 【結果】

#### (1) 分析方法

本調査の主たる目的は, 今年度小学校教職課程を学び始めた学生たちが, 「小学校歌唱共通教材」を, 小学生の時にどのように履修したと認知しているかを彼らの音楽経験や曲の好みとの関係と併せて質問紙調査を行い, 課題や可能性を明らかにすることであった。分析ソフトとして, SPSS (Version 25) を用いた。

#### (2) - 1 24 曲の歌唱共通教材に対する授業で学習したという記憶度

1 年から 6 年までの 24 曲を学習指導要領表記順に, 記憶度数(%)で整理した(図 2)。

9 割を超えて「学習した記憶」があるのは, 「うみ・1 年」, 「春がきた・2 年」, 「ふるさと・6 年」だけである。また, 9 割を超えて「学習した記憶がない」のは, 「日のまる・1 年」, 「越天楽今様・6 年」であった。

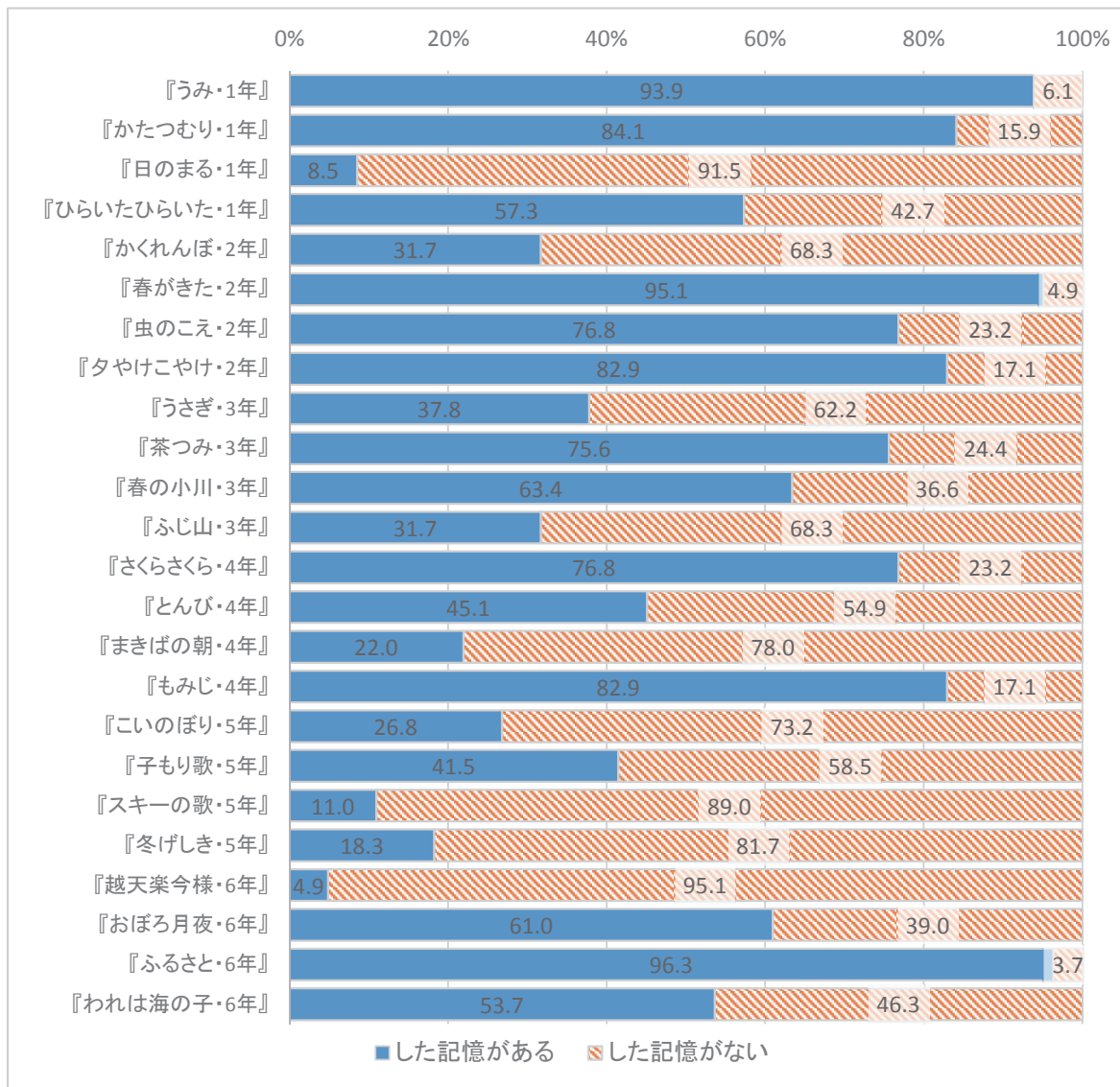


図2 歌唱共通教材の曲ごとの学習の記憶（割合）

分析として、これら24曲について学生の記憶度の類似性を見るため、階層的クラスター分析（ウォード法）を行った（図3）。

その結果、3つのクラスターを得た。クラスター①は、「春がきた・2年（95.1%が記憶）」「ふるさと・6年（96.3%）」「うみ・1年（93.9%）」「かたつむり・1年（84.1%）」「タやけこやけ・2年（82.9%）」「もみじ・4年（82.9%）」「虫のこえ・2年（76.8%）」「茶つみ・3年（75.6%）」「さくらさくら・4年（76.8%）」「春の小川・3年（63.4%）」の10曲で、記憶の平均値は82.78%で3つのクラスターの中で一番記憶度が高く、「優しい感じのメロディー」群と名付けた。

クラスター②は、「ふじ山・3年（31.7%）」「まきばの朝・4年（22.0%）」「日のまる・1年（8.5%）」「越天楽今様・6年（4.9%）」「スキーの歌・5年（11.0%）」「冬げしき・5年（18.3%）」「こいのぼり・5年（26.8%）」の7曲で、記憶度の平均値は17.60%で、3つのクラスターの中で最も記憶度が低く、「かたい感じのメロディー」群と名付けた。

クラスター③は、「とんび・4年（45.1%）」「おぼろ月夜・6年（61.6%）」「われは海の子・6年（53.7%）」「うさぎ・3年（37.8%）」「子もり歌・5年（41.5%）」「ひらいたひらいた・1年（57.3%）」「かくれんぼ・2年（31.7%）」の7曲で、記憶度の平均値は46.96%で「昔の歌風メロディー」群と名付けた。

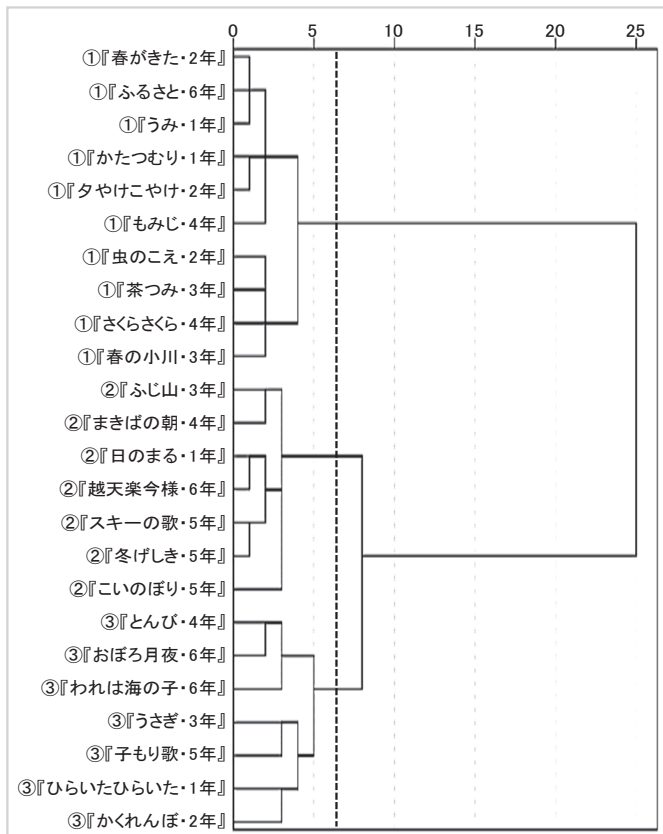


図3 クラスタ分析の結果

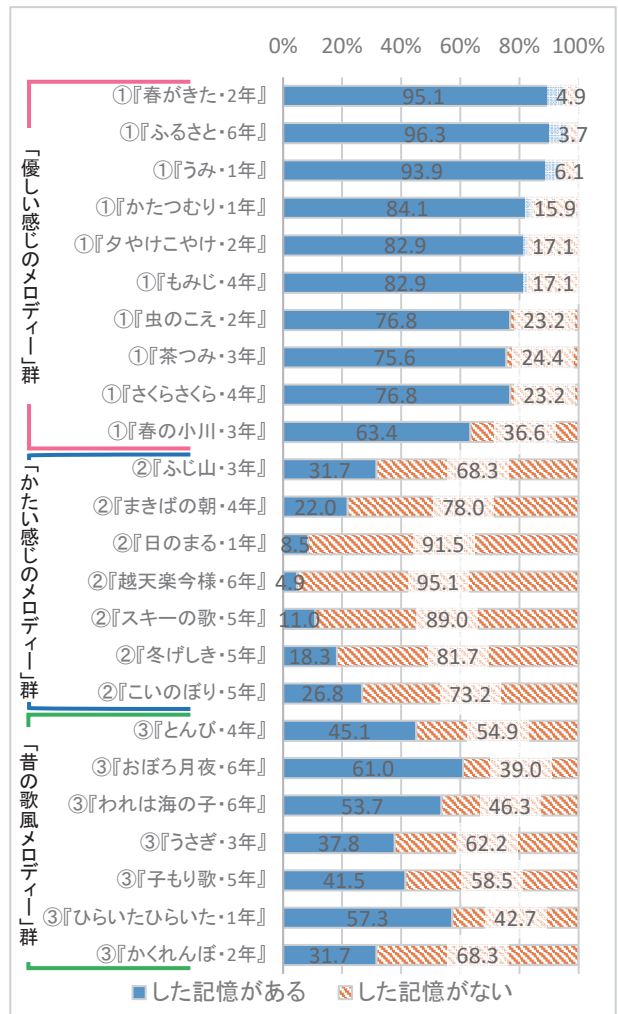


図4 3クラスターの曲ごとの学習の記憶 (割合)

(2) - 2 低学年 (8 曲) 群・中学年 (8 曲) 群・高学年 (8 曲) 群に対する学習の記憶の相違  
 学習の記憶について、授業を受けた学年による違いを調べるため、まず 24 曲を低学年曲群・中学年曲群・高学年曲群の 3 群に分けた。回答者ごとに群別で各曲の学習の記憶を合計して得点化し、学年群間に差があるかどうかを対応のある 1 元配置分散分析で検討した。結果は、 $F(2, 162) = 56.614$ ,  $p < .001$  で有意であった。

また、Bonferroni 法を用いて多重比較を行ったところ、低学年曲群より中学年曲群 ( $p < .001$ )、中学年曲群より高学年曲群 ( $p < .001$ ) というように学年が上がるほど、得点が有意に低かった。低学年の曲が一番記憶度が高く、中学年、高学年の順に記憶度が低くなっているといえる。

表2 3 学年の学習の記憶得点 (標準偏差)

	低学年曲群	中学年曲群	高学年曲群
平均値 (SD)	5.30 (1.58)	4.35 (1.91)	3.13 (1.53)

(2) - 3 低学年・中学年・高学年のそれぞれ 8 曲の中での学習の記憶の相違  
 低・中・高学年曲群各 8 曲の中で、学習した記憶があるという回答の比率について曲間の差をみるためにコクランの Q 検定を行い、有意差がみられたものは Bonferroni 法を用いて多重比較を行った。

低学年曲群の8曲間には有意差がみられた ( $Q = 268.055, df = 7, p < .001$ )。

多重比較の結果を整理する。「日のまる・1年」は、他の7曲よりも記憶度が低い。「かくれんぼ・2年」の記憶度は、「日のまる・1年」より高いが、他の6曲よりも低い。「ひらいたひらいた・1年」の記憶度は、「夕やけこやけ・2年」「かたつむり・1年」「うみ・1年」「春がきた・2年」より低い。「虫のこえ・2年」は、「日のまる・1年」や「かくれんぼ・2年」より記憶度が高く、他の5曲とは差はみられなかった。 ( $p < .05$ )

中学年曲群の8曲間にも有意差がみられた ( $Q = 141.525, df = 7, p < .001$ )。

多重比較の結果を整理する。「まきばの朝・4年」「ふじ山・3年」「うさぎ・3年」は、「春の小川・3年」「茶つみ・3年」「さくらさくら・4年」「もみじ・4年」より記憶度が低い。また、「まきばの朝・4年」は、「とんび・4年」より低く、「とんび・4年」は、「茶つみ・3年」「さくらさくら・4年」「もみじ・4年」より低い。 ( $p < .05$ )

高学年曲群の8曲間にも有意差がみられた ( $Q = 231.330, df = 7, p < .001$ )。

多重比較の結果を整理する。「越天楽今様・6年」と「スキーの歌・5年」は「子もり歌・5年」「われは海の子・6年」「おぼろ月夜・6年」より低い。「ふるさと・6年」は、他の7曲すべてより高い。「冬げしき・5年」と「こいのぼり・5年」は「われは海の子・6年」「おぼろ月夜・6年」より低い。 ( $p < .05$ )

### (3) 学習の記憶と小学校音楽授業の好き嫌い度の関係

小学校音楽授業の好き嫌いについては、図5の通りであった ( $M = 4.65, SD = 1.09$ )。

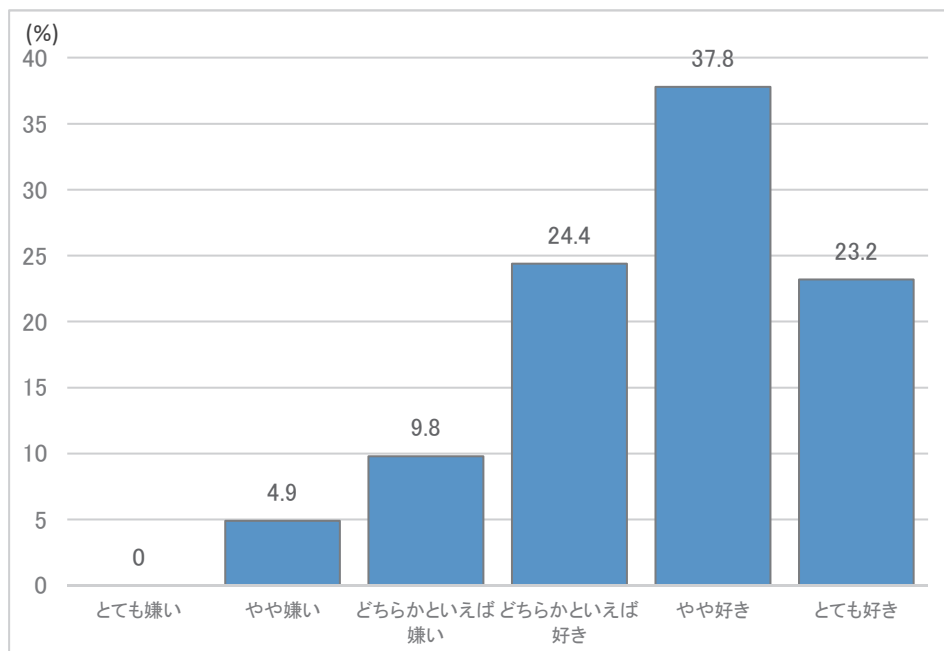


図5 小学校の音楽の授業好き嫌い (割合)

音楽授業の好き嫌い度が学習の記憶に影響があるかどうかについて、クラスター分析の3群それぞれと授業の好き嫌いで相関分析をした結果、クラスター①「優しい感じのメロディー」群と低い正の相関があった ( $r = .224, p = .043$ )。音楽の授業が好きだったと感じている学生は、クラスター①「優しい感じのメロディー」群を記憶しているといえる。



#### (4) 学習の記憶と曲の好き嫌いの関係

学習の記憶度と曲の好き嫌いの関係を調べるため、クラスターごとに学習の記憶と曲の好き嫌いの平均値をそれぞれの得点とし、相関分析を行った。クラスター①「優しい感じのメロディー」群 ( $r = .256, p = .020$ ) とクラスター③「昔の歌風メロディー」群 ( $r = .362, p < .001$ ) の2つのクラスターで学習の記憶と曲の好き嫌いに低い正の相関がみられた。クラスター①と③について、楽曲を好きだと感じているほど、記憶度も高くなっている。

#### (5) 学習の記憶と性差の関係

調査対象者(男性 29 名・女性 53 名)の性別で学習の記憶に差があるかを調べるため、3 クラスターの学習の記憶度を従属変数に性別で t 検定を実施した結果、どのクラスターも有意差はみられなかった。

学習の記憶には性別で有意差がみられなかったが、(3) では、学習の記憶と音楽授業の好き嫌いとの関係が見えていることから、音楽授業の好き嫌いの性差を調べた。

音楽授業の好き嫌いを従属変数に性別で t 検定をした結果、男性 ( $M = 4.14, SD = 1.30$ ) と女性 ( $M = 4.92, SD = 0.85$ ) の間に有意差がみられた ( $t = -2.929, df = 41.421, p = .006$ )。女性の方が男性よりも平均値が高く、小学校の音楽の授業が好きと回答している。

#### (6) 学習の記憶と授業外の音楽経験の関係

授業外の音楽経験については、3 クラスターの学習の記憶度を従属変数に、音楽経験の有無(ある = 58.5%, なし = 41.5%) を独立変数にして t 検定を実施した結果、どのクラスターも有意差はなかった。

学習の記憶と授業外の音楽経験に有意差がみられなかったが、(3) では、学習の記憶と音楽授業の好き嫌いとの関係が見えていることから、音楽授業の好き嫌いと授業外の音楽経験の関係を調べた。

音楽授業の好き嫌いについて音楽経験の有無で t 検定を行ったところ、授業外の音楽経験がある群 ( $M = 5.00, SD = 0.95$ ) と、ない群 ( $M = 4.15, SD = 1.11$ ) の間に有意差がみられた ( $t = 3.752, df = 80.000, p < .001$ )。授業外の音楽経験がある人の方が平均値が高く、小学校の音楽の授業が好きと回答している。

#### (7) 学習の記憶と苦手科目音楽選択との関係

将来指導する立場になった時にどの科目が苦手(不安)かを 11 科目の中から尋ねると、音楽は、外国語、理科、算数に続いて 4 番目に苦手度が高く、全体の 42.7% の学生が選択した。音楽が苦手と選択した群と選択しなかった群について、学習の記憶に差があるかどうかを t 検定で調べたが、有意差はみられなかった。

学習の記憶と苦手科目音楽選択に有意差がなかったが、(3) では、学習の記憶と音楽授業の好き嫌いとの関係が見えていることから、音楽授業の好き嫌いと苦手科目音楽選択の関係を調べた。

音楽が苦手と選択した群と選択しなかった群について、音楽授業の好き嫌いに差があるか t 検定を行ったところ、音楽が苦手と選択した群 ( $M = 4.23, SD = 1.06$ ) と選択しなかった群 ( $M = 4.96, SD = 1.02$ ) の間に有意差がみられた ( $t = -3.147, df = 80.000, p = .002$ )。苦手と選択しなかった群の方が選択した群より、小学校の音楽の授業が好きと回答している。

#### IV 考察

本稿の目的は、今年度小学校教職課程を学び始め、数年後には教育現場で新学習指導要領のもと子どもたちを指導する学生たちが、「小学校歌唱共通教材」を、どのように学習したと認知しているかを彼らの音楽経験や曲の好き嫌い等との関係について調査分析し、学習指導要領の変遷や時代背景と併せてその結果を考察することであった。分析結果から判明したことを次のように5点に整理した。

考察1点目は、小学校の音楽授業で、どの「歌唱共通教材」を履修したと記憶しているかについてである。この記憶度について、3つの視点で分析した。視点1は、24曲すべての記憶度について、視点2は、低学年・中学年・高学年グループで記憶の差があるかどうか、視点3は、低学年・中学年・高学年それぞれ8曲間に差があるかどうかである。

24曲すべてについて、記憶度を分析した結果、一番記憶度が高いグループは、「春がきた・2年(95.1%が記憶)」「ふるさと・6年(96.3%)」「うみ・1年(93.9%)」「かたつむり・1年(84.1%)」「夕やけこやけ・2年(82.9%)」「もみじ・4年(82.9%)」「虫のこえ・2年(76.8%)」「茶つみ・3年(75.6%)」「さくらさくら・4年(76.8%)」「春の小川・3年(63.4%)」の10曲であった。一番低いグループは、「ふじ山・3年(31.7%)」「まきばの朝・4年(22.0%)」「日のまる・1年(8.5%)」「越天楽今様・6年(4.9%)」「スキーの歌・5年(11.0%)」「冬げしき・5年(18.3%)」「こいのぼり・5年(26.8%)」の7曲で、7割から8割の学生が学習していないと思っている。その他の7曲は、「とんび・4年(45.1%)」「おぼろ月夜・6年(61.6%)」「われは海の子・6年(53.7%)」「うさぎ・3年(37.8%)」「子もり歌・5年(41.5%)」「ひらいたひらいた・1年(57.3%)」「かくれんぼ・2年(31.7%)」で、約半数の学生で、「学習した」「学習していない」と判断が分かれている。

この結果で、学年ごとに特徴があるように見えることから、低学年・中学年・高学年曲群で記憶の差を分析したところ、低学年曲群は中学年曲群より、さらに中学年曲群は高学年曲群より、学習したと認知していることが明らかとなった。

さらに、低・中・高のグループ8曲間では記憶に差があるか分析すると、前述の通り、低学年曲群の中では、「日のまる・1年(8.5%)」と「かくれんぼ・2年(31.7%)」が、他の6曲と比べて記憶度が低く差があることが判明した。同様に中学年曲群では「まきばの朝(22.0%)」が、どの7曲より記憶度が低く差があることが判明した。高学年グループ曲群においては、「越天楽今様・6年(4.9%)」と「スキーの歌・5年(11.0%)」が他の6曲より記憶度が低く差があることが判明した。

続いて記憶度の差の原因について考察した。「なぜ、歌唱共通教材24曲の中で、学んでいないと認知する楽曲があるのか」、その原因を2点目から5点目の考察で整理する。

考察2点目は、原因を学習指導要領の変遷による音楽科授業時間数と歌唱共通教材曲数の変化から検討した。

現大学1年生は、小学校時代の学習指導要領では、低学年は表1によると⑤1998年(H10)告示のもので学び、中・高学年は、⑥2008年(H20)学習指導要領の教科書で学習している。そのため、低学年の指定曲数は、1年は「うみ」「かたつむり」「日のまる」「ひらいたひらいた」のうち3曲、2年も「春がきた」「夕やけこやけ」「かくれんぼ」「虫のこえ」のうち、3曲を選択するようになっている。中学年は4曲ずつ指定され、高学年は、低学年同様に4曲中3曲を選択するようになっている。

この指定曲数の状況が、低学年では「日のまる」「かくれんぼ」と高学年の「越天楽今様」「スキーの歌」「冬げしき」の記憶度が、極めて低いことの原因のひとつと言える。

また、授業時間数も大いに記憶度と関係があると考え。低学年では、週2時間が確保されていたが、中学年では週1.7時間、高学年では週1.4時間という短い授業時間で歌唱のみならず器楽、音楽づくり、鑑賞等の教材があり、歌唱曲が定着するところまで学習できていない状況が見て取れる。

考察3点目は、「なぜ、歌唱共通教材24曲の中で、学んでいないと認知する楽曲があるのか」、その原因を「小学校音楽授業」を好きだったか嫌いだったかとの関係から考察した。

分析によると、音楽の授業が好きだったと感じている学生は、クラスター分析で「優しい感じのメロディー」曲群と名付けた10曲の「春がきた・2年（95.1%が記憶）」「ふるさと・6年（96.3%）」「うみ・1年（93.9%）」「かたつむり・1年（84.1%）」「夕やけこやけ・2年（82.9%）」「もみじ・4年（82.9%）」「虫のこえ・2年（76.8%）」「茶つみ・4年（75.6%）」「さくらさくら・4年（76.8%）」「春の小川・3年（63.4%）」群を記憶していることが分かった。このクラスターは、最も記憶が良い曲のグループであり、音楽の授業が好きと記憶には、関係があると言える。

考察4点目は、「なぜ、歌唱共通教材24曲の中で、学んでいないと認知する楽曲があるのか」、その原因を「楽曲」を好きかどうかとの関係から考察した。クラスター分析のグループ曲群のうち、2つのグループで「曲が好きであれば記憶している」という関係があることが分かった。2つのグループ曲は全17曲で、具体的には、考察3点目の「優しい感じのメロディー」曲群10曲と、「とんび・4年（45.1%）」「おぼろ月夜・6年（61.6%）」「われは海の子・6年（53.7%）」「うさぎ・3年（37.8%）」「子守歌・5年（41.5%）」「ひらいたひらいた・1年（57.3%）」「かくれんぼ・2年（31.7）」の7曲だった。グループ曲をそれぞれ「優しい感じのメロディー」曲群、「昔の歌風メロディー」曲群と名付けた。

石井・虫明（2011）によると、小学生に対する唱歌の印象調査から明らかになった事柄として、児童が選んだ「好まれていない曲」は、「日のまる」「ひらいたひらいた」「ふじ山」「スキーの歌」「子守歌」「まきばの朝」「越天楽今様」「われは海の子」とあるが、本学学生の記憶度の低い曲と共通点があると考えられる。

考察5点目は「なぜ、歌唱共通教材24曲の中で、学んでいないと認知する楽曲があるのか」、その原因を「性差」「授業外の音楽経験」「苦手科目音楽選択」の3観点から関係を考察した。学習したという記憶が、「男女差」や「授業外の音楽経験のあるなし」や「苦手科目として音楽を選択した」とこととの関係があるかどうかを分析したが、3観点とも差はなく、原因としては言い切れないことが判明した。

最後に、「歌唱共通教材」学びの記憶の分析と結果考察から、音楽科教育の2点の課題が見えてきた。1点目は、歌唱共通教材の意義が達成できていないのではないかという点である。唱歌、童謡、わらべ歌の世代を超えた共有や音楽文化を受け継ぐことは重要だが、そのためには、音楽を学習する子どもたちの授業時間をはじめ、教科書の検討、音楽授業の教材教具など学習環境を整備することが大変重要だということである。また、歌唱共通教材の楽曲指定についても、時代の変化とともに曲名や曲数などさらに工夫が必要となるだろう。

2点目は、子どもたちへの音楽授業の指導の在り方である。音楽文化の継承者である指導者の研修を充実させることが、音楽が好きな子ども、音楽の授業が好きな子ども、そして心豊かな人間を育てることになるのではないかと考える。

## V 参考文献

- 1) 文部科学省. (2017). 小学校学習指導要領 (平成29年告示).
- 2) 文部科学省. (2008). 小学校学習指導要領 (平成20年告示).

- 3) 文部科学省. (2009 以前). 学習指導要領「生きる力」Q & A 7. 音楽に関すること. 参照日: 2019 年 11 月 19 日, 参照先: 文部科学省 HP: [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/qa/07.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/qa/07.htm)
- 4) 国立教育政策研究所. (2014 年 12 月 26 日). 学習指導要領データベース. 参照日: 2019 年 11 月 19 日, 参照先: 国立教育政策研究所 HP: <http://www.nier.go.jp/guideline/index.htm>
- 5) 石井宏美, 虫明眞砂子. (2011). 小学校の音楽科における歌唱共通教材のあり方について. 岡山大学教師教育開発センター紀要 (1), 57-68.
- 6) 鈴木渉, 伊藤綾. (2011). 歌唱共通教材の履修度と周知の状況を調査する: 歌い継がれる曲の価値に関する考察. 山形大学紀要. 教育科学, 15 (2), 163-184.
- 7) 酒匂美貴子, 猪野貴一, 村尾忠廣, 嶋田由美. (2015). 『歌唱共通教材』(第 2 年次): —〈研究者として, 教育実践者として〉現場からの報告をもとに今後を考える—. 音楽教育学, 45 (2), 33-40.
- 8) 津田正之, 江田司, 中山三恵子, 後藤丹, 嶋田由美. (2014). 『歌唱共通教材』: —〈研究者として, 教育実践者として〉その意義と今後を考える—. 音楽教育学, 44 (2), 47-54.
- 9) 中家淳悟. (2018). 小学校学習指導要領における音楽科歌唱共通教材の認知度と難易度別ピアノ伴奏の印象についての調査. 環太平洋大学研究紀要, 12, 295-300.
- 10) 氏家史人. (2019). 教員養成課程における初等音楽科教育が果たすべく役割について: 学生の「音楽」教科に対する印象と「歌唱共通教材」の認知度についての調査を基に. 日本体育大学紀要, 48 (2), 103-112.
- 11) 石田陽子. (2006). 唱歌教育と童謡復興運動にみる初等科音楽教育への提言についての一考察. 四天王寺国際仏教大学紀要 (44), 193-205.
- 12) 高木和男. (2008). 学習指導要領からみた音楽教育の変遷: 特に小学校における音楽教育その 1. 尚絅学院大学紀要, 56, 249-260.
- 13) 栗村眞久. (2013). 小学校学習指導要領(音楽)に基づく歌唱指導のあり方: 歌唱共通教材を中心に. 安田女子大学紀要, 41, 283-294.
- 14) 岩川みやび. (2017). 小学校教員養成課程における音楽科教材に関する研究—歌唱共通教材を中心として—. 共栄大学教育学部研究紀要 (1), 37-48.
- 15) 江田司. (2017). 『歌唱共通教材』指導法についての一考察: 4 年生教材《まきばの朝》を例に. 名古屋学院大学論集 社会科学篇, 53 (4), 147-162.
- 16) 山本裕之. (2017). 小学校音楽科における『歌唱共通教材』指導法についての一考察: 学生アンケート調査を通して. 神戸親和女子大学児童教育学研究, 37, 275-290.
- 17) 大地宏子. (2019). 歌唱共通教材と音楽教育現場の関係についての今日的課題. 現代教育学部紀要, 11, 1-11.
- 18) 小倉隆一郎, 荒井直孝, 細田秀一. (2019). 幼稚園・小学校教員養成課程の学生が歌唱教材を学習するための支援: 音楽の初学者を対象として ICT を活用する試み. 教育学部紀要, 52 (別集), 36-42.